

4 かんしょ

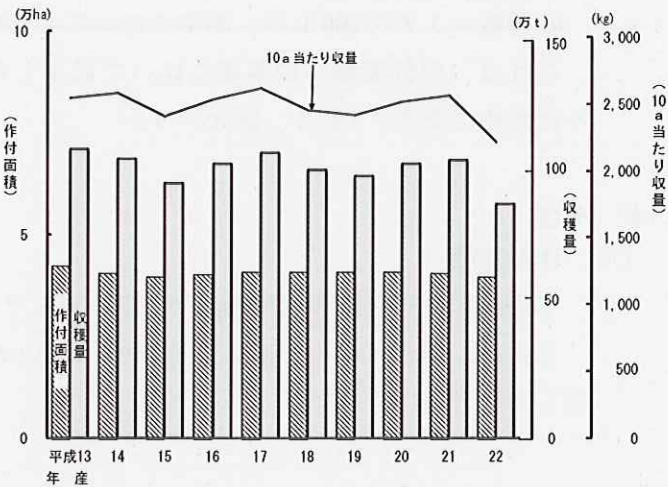
(1) 作付面積

平成22年産かんしょの作付面積は3万9,700haで、前年産に比べ800ha（2％）減少した。

これは、鹿児島県においてでん粉用の作付けが増加したものの、全国的に農家の高齢化に伴う労働力不足等により作付けが減少したことによる。

（表4、図4）

図4 かんしょの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(2) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,180kgで、前年産に比べて14％下回った。

これは、鹿児島県において4月中旬から5月上旬までの低温や6月中旬から7月中旬までの降雨の影響によりいもの肥大が抑制されたこと等による。（表4、図4）

(3) 収穫量

収穫量は86万3,600tで、前年産に比べて16万2,400t（16％）減少した。

これは、作付面積が前年産に比べて減少したことに加えて、10a 当たり収量が前年産を下回ったことによる。（表4、図4）

表4 平成22年産かんしょの作付面積、10a 当たり収量及び収穫量（全国）

区 分	作 付 面 積	1 0 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		1 0 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10a 当 たり 平 均 収 量 対	10a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全 国 主 産 県 計	39,700	2,180	863,600	△ 800	98	86	△ 162,400	84	87	2,510	
	32,600	2,330	760,000	△ 500	98	86	△ 140,100	84	87	2,680	
うち 茨 城 千 葉 静 岡 愛 知 徳 島 長 崎 熊 本 宮 崎 鹿 児 島	6,480	2,400	155,700	△ 30	100	88	△ 22,000	88	92	2,620	
	4,700	2,140	100,600	△ 90	98	84	△ 21,100	83	85	2,510	
	858	1,420	12,200	△ 18	98	87	△ 2,100	85	70	2,030	
	475	1,390	6,600	△ 23	95	91	△ 1,040	86	82	1,700	
	1,160	2,300	26,700	△ 50	96	88	△ 5,000	84	95	2,410	
	459	1,420	6,540	△ 73	86	80	△ 2,880	69	79	1,800	
	1,210	2,230	27,000	△ 30	98	96	△ 1,900	93	97	2,300	
	3,040	2,540	77,200	△ 220	93	89	△ 15,400	83	97	2,610	
	14,300	2,430	347,500	100	101	83	△ 68,600	84	83	2,920	

注：1 かんしょの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成22年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国の収穫量については、主産県の調査結果から推計したものである。
 2 主産県とは、全国のかんしょ作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県である。

5 飼料作物

(1) 牧草

ア 作付（栽培）面積

平成22年産牧草の作付（栽培）面積は75万9,100haで、前年産に比べて5,000ha（1％）減少した。

（表5－1、図5－1）

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,630kgで、前年産並みであった。（表5－1、図5－1）

ウ 収穫量

収穫量は2,758万tで、前年産に比べて14万6,000t（1％）減少した。

これは、10a当たり収量が前年産並みであったものの、作付（栽培）面積が前年産に比べて減少したことによる。（表5－1、図5－1）

図5－1 牧草の作付（栽培）面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

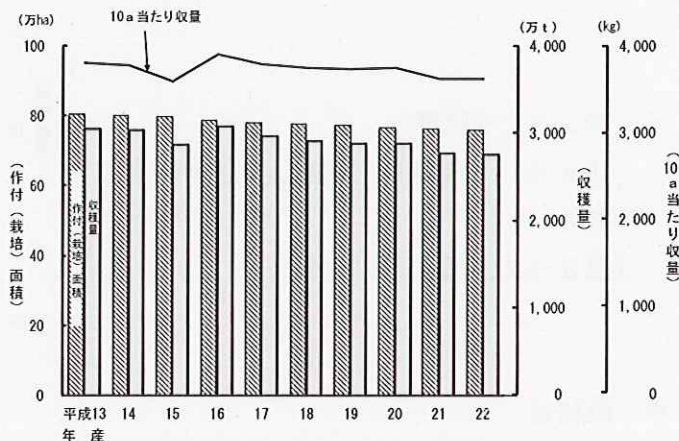


表5－1 平成22年産牧草の作付（栽培）面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付(栽培) 面 積	1 0 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作付(栽培)面積		1 0 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量	
				対 差	対比	対比	対 差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全 国	759,100	3,630	27,580,000	△ 5,000	99	100	△ 146,000	99	97	3,730	
主 産 県 計	758,900	3,630	27,573,000	△ 4,900	99	100	△ 146,000	99	97	3,730	
う ち 北 海 道	553,500	3,320	18,376,000	△ 1,800	100	101	162,000	101	99	3,370	

注：1 飼料作物の収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成22年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合計したものである（以下表5－2及び表5－3について同じ。）。

2 主産県とは、全国の作付（栽培）面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び全国飼料増産行動会議における飼料増産重点地区が設定されている都道府県である。

(2) 青刈りとうもろこし

ア 作付面積

平成22年産青刈りとうもろこしの作付面積は9万2,200haで、前年産並みとなった。

(表5-2、図5-2)

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,040kgで、前年産並みであった。

(表5-2、図5-2)

ウ 収穫量

収穫量は464万3,000tで、前年産並みであった。

(表5-2、図5-2)

図5-2 青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)

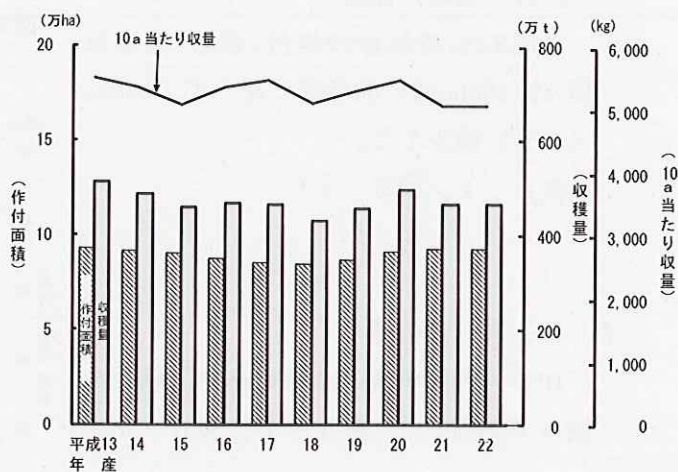


表5-2 平成22年産青刈りとうもろこしの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作付面積		10a 当たり 収 量	収 穫 量			10a 当たり 平均収量 対 比	10a 当たり 平均収量
				対 差	対比	対比	対 差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
全 国	92,200	5,040	4,643,000	△	100	100	△ 2,000	100		96	5,260
主 産 県 計	92,100	5,040	4,639,000	△	100	100	△ 2,000	100		96	5,260
う ち 北 海 道	46,700	5,220	2,438,000	1,300	103	108	236,000	111		99	5,290

(3) ソルゴー

ア 作付面積

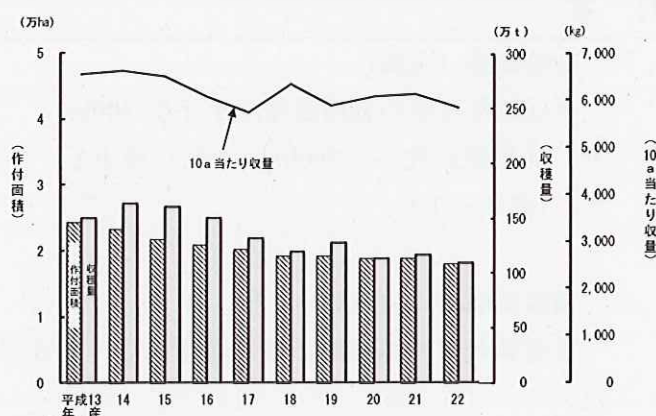
平成22年産ソルゴーの作付面積は1万7,900haで、前年産に比べて800ha（4％）減少した。（表5－3、図5－3）

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は5,590kgで、前年産に比べて4％下回った。

これは、宮崎県、鹿児島県において、6月中旬から7月中旬までの日照不足及び降雨の影響により生育が抑制されたこと等による。（表5－3、図5－3）

図5－3 ソルゴーの作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



ウ 収穫量

収穫量は100万1,000tで、前年産に比べて9万1,000t（8％）減少した。

これは、作付面積が前年産に比べて減少したことに加えて、10a 当たり収量が前年産を下回ったことによる。（表5－3、図5－3）

表5－3 平成22年産ソルゴーの作付面積、10a 当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	1 0 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較								(参 考)	
				作付面積		1 0 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量			
											対 差	対比	対比
	ha	kg	t		ha	%	%		t	%	%	kg	
全 国	17,900	5,590	1,001,000	△	800	96	96	△	91,000	92	92	6,060	
主 産 県 計	17,900	5,580	998,900	△	700	96	95	△	92,100	92	92	6,050	
う ち	長 崎	2,270	5,520	125,400	△	30	99	98	△	3,800	97	93	5,910
	熊 本	1,420	5,840	82,900		0	100	99	△	900	99	96	6,100
	大 分	1,140	5,700	65,000		70	107	93	△	500	99	84	6,750
	宮 崎	3,670	6,020	220,900	△	640	85	97	△	47,300	82	96	6,280
	鹿 児 島	2,460	6,960	171,200		10	100	91	△	16,200	91	95	7,330

6 工芸農作物

(1) 茶

ア 栽培面積（全国）

平成22年産茶の栽培面積は4万6,800haで、前年産に比べて500ha（1％）減少した。（表6－1）

表6－1 茶の栽培面積（全国）

単位：ha	
区 分	栽 培 面 積
平成21年産	47,300
22	46,800
対前年産比（％）	99

イ 摘採実面積（主産県）

主産県の茶の摘採実面積（収穫面積）は3万9,000haで、前年産に比べて900ha（2％）減少した。

これは、静岡県等における生産者の高齢化に伴う労働力不足や、価格低迷の影響等による。

（表6－2）

ウ 生葉収穫量（主産県）

主産県の茶の生葉収穫量は38万4,700tで、前年産に比べて4,400t（1％）減少した。

これは、10a当たり生葉収量が前年産を上回ったものの、摘採実面積が前年産に比べて減少したことによる。（表6－2）

エ 荒茶生産量（主産県）

主産県の荒茶生産量は8万3,000tで、前年産に比べて900t（1％）減少した。

これは、生葉収穫量が前年産に比べて減少したことによる。

府県別にみると、静岡県が3万3,400t（荒茶生産量の40％）、次いで鹿児島県が2万4,600t（同30％）、三重県が7,100t（同9％）となっている。

なお、全国の荒茶生産量は、8万5,000tで、前年産に比べて1,000t（1％）減少した。

（表6－2、図6－1）

図6－1 荒茶生産量（主産県）

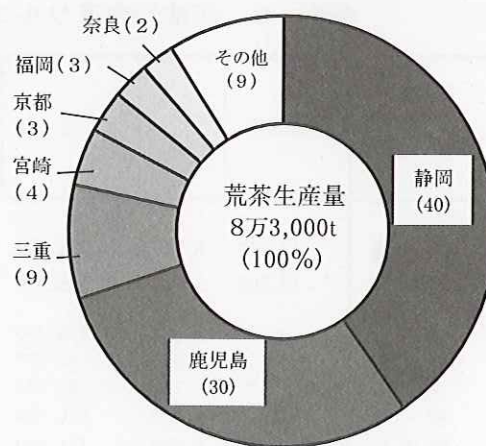


表6－2 摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区 分	摘 採 面 積		10 a 当 たり 生 葉 収 量			生 葉 収 穫 量			荒 茶 生 産 量		
	実面積	延べ面積	一番茶	二番茶		一番茶	二番茶		一番茶	二番茶	
平成21年産	39,900	87,700	975	449	459	389,100	179,000	122,000	83,900	37,100	25,400
22	39,000	87,700	986	427	460	384,700	166,600	117,300	83,000	34,400	24,200
対前年産比（％）	98	100	101	95	100	99	93	96	99	93	95

注：主産県とは、全国の荒茶生産量（平成21年産）のおおむね80％を占めるまでの上位都道府県に加えて、畑作物共済事業及び農業生産総合対策を実施する都道府県である。

(2) てんさい

ア 作付面積

平成22年産てんさいの作付面積は6万2,600haで、前年産に比べて1,900ha（3%）減少した。
これは、野菜、青刈りとうもろこし等への転換があったこと等による。

（表6-3、図6-2）

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,940kgで、前年産に比べて13%下回った。

これは、生育期間における高温及び多雨の影響により、褐斑病、黒根病等の被害が多発したこと等による。（表6-3）

ウ 収穫量

収穫量は309万tで、前年産に比べて55万9,000t（15%）減少した。

これは、作付面積及び10a当たり収量が減少したためである。

（表6-3、図6-2）

図6-2 てんさいの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移

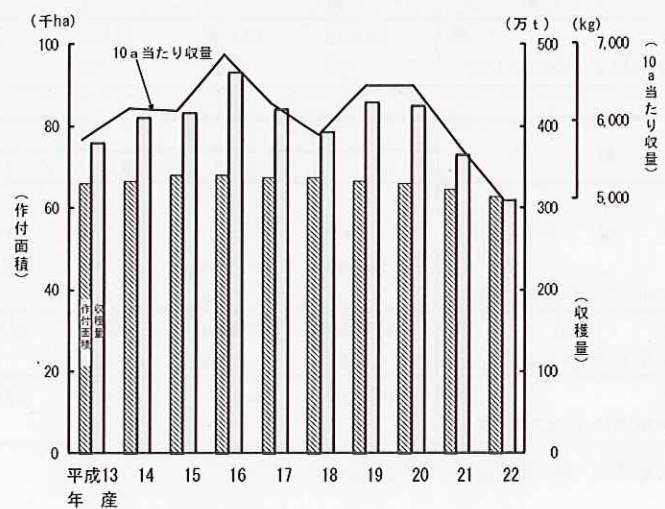


表6-3 てんさいの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10a当たり 収 量	収 穫 量			10a当たり 平均収量 対 比	10a当たり 平均収量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比		
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	%	kg
北 海 道	62,600	4,940	3,090,000	△ 1,900	97	87	△ 559,000	85	80	80	6,210

注：調査は、北海道を対象に行っている。

(3) さとうきび

ア 収穫面積

平成22年産さとうきびの収穫面積は2万3,200haで、前年産に比べて200ha（1%）増加した。

これは、2年1作の夏植えから、1年1作の春植え及び株出しへ移行しているためである。

（表6-4、図6-3）

表6-4 さとうきびの作型別栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	栽培面積	収 穫 面 積				10 a 当 た り 収 量			
		計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し	計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し
	ha	ha	ha	ha	ha	kg	kg	kg	kg
全 国 平成21年産	31,400	23,000	7,370	3,980	11,700	6,590	8,670	5,380	5,650
22	31,200	23,200	6,950	4,060	12,200	6,330	8,000	5,540	5,640
前年産との比較（%）	99	101	94	102	104	96	92	103	100
鹿 児 島	12,300	10,500	1,480	2,290	6,700	6,170	7,880	5,950	5,890
前年産との比較（%）	100	102	91	100	105	100	99	104	100
沖 縄	18,900	12,800	5,470	1,770	5,520	6,410	8,030	5,010	5,310
前年産との比較（%）	98	100	95	105	104	93	90	102	99

区 分	収 穫 量			
	計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し
	t	t	t	t
全 国 平成21年産	1,515,000	639,300	214,100	661,600
22	1,469,000	556,100	224,900	687,700
前年産との比較（%）	97	87	105	104
鹿 児 島	647,700	116,600	136,300	394,800
前年産との比較（%）	102	91	104	105
沖 縄	821,000	439,500	88,600	292,900
前年産との比較（%）	93	86	107	102

注：調査は、鹿児島県及び沖縄県を対象に行っている。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は6,330kgで、前年産に比べて4%下回った。

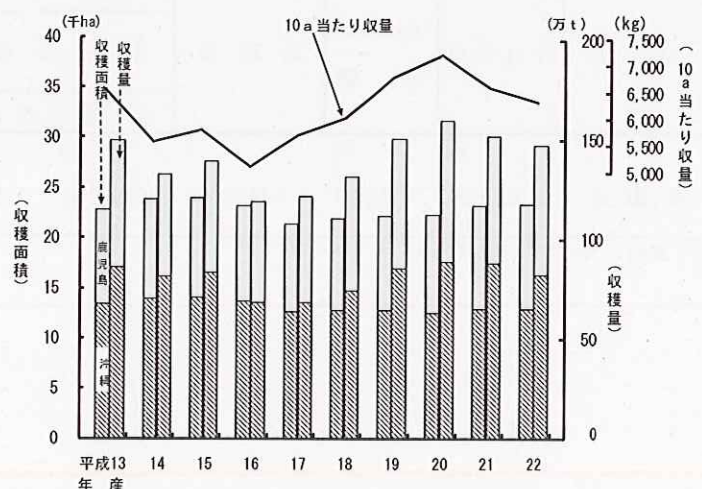
これは、日照不足等の影響や台風第7号及び第14号による被害があったためである。（表6-4）

ウ 収穫量

収穫量は146万9,000tで、前年産に比べて4万6,000t（3%）減少した。

これは、収穫面積は増加したものの、10a 当たり収量が前年産を下回ったためである。（表6-4、図6-3）

図6-3 さとうきびの収穫面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移



(4) こんにゃくいも（主産県）

ア 栽培面積・収穫面積

主産県のこんにゃくいもの平成22年産栽培面積は3,690haで、前年産並みであった。

（表6-5、図6-4）

表6-5 こんにゃくいもの栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量（主産県）

区 分	栽培面積	収穫面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 対 比				（ 参 考 ）	
					栽培面積	収穫面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	10a当たり 平均収量 対 比	10a当たり 平均収量
	ha	ha	kg	t	%	%	%	%	%	kg
主 産 県 計	3,690	2,150	3,000	64,600	100	100	103	103	109	2,760
栃 木	174	103	2,570	2,650	98	99	97	96	99	2,590
群 馬	3,520	2,050	3,020	61,900	100	100	103	103	109	2,760

注：1 こんにゃくいもの収穫量調査は主産県調査で3年周期で全国調査を実施しており、平成22年産については主産県を対象に調査を実施した。

2 主産県とは、全国のこんにゃくいも収穫面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県である。

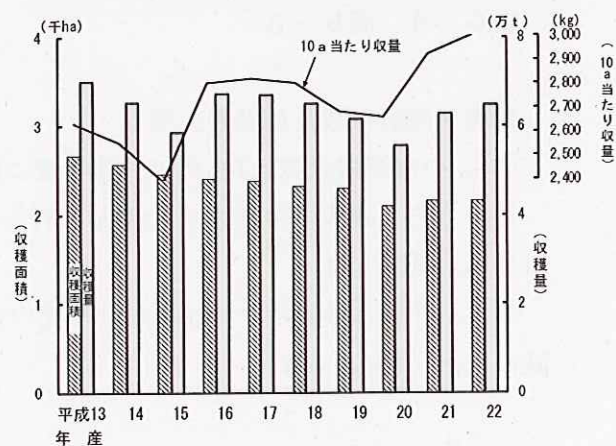
イ 10a当たり収量

主産県の10a当たり収量は3,000kgで、前年産に比べて3%上回った。

これは、群馬県において、8月上旬から9月中旬までの高温、9月上中旬の少雨の影響による葉焼けの被害等が発生したものの、作柄が良かった前年に収穫された種いもの品質・肥大が良好であったためである。

（表6-5、図6-4）

図6-4 こんにゃくいもの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（主産県）



ウ 収穫量

主産県の収穫量は6万4,600tで、前年産に比べて1,900t（3%）増加した。

これは、収穫面積は前年産並みであったものの、10a当たり収量が前年産を上回ったためである。

（表6-5、図6-4）

(5) い (主産県)

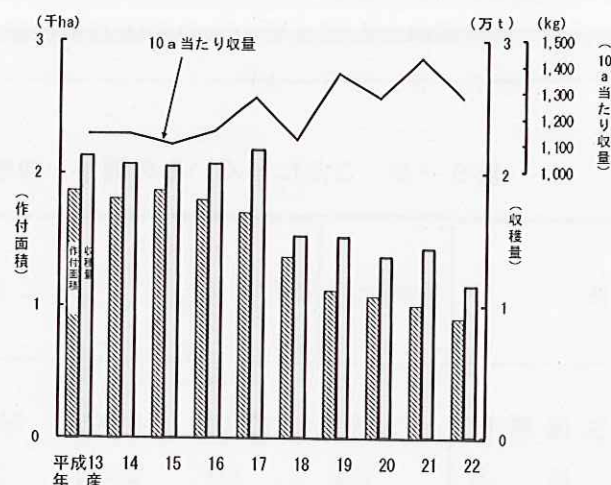
ア 作付面積

主産県 (福岡県及び熊本県) の「い」の平成22年産作付面積は899haで、前年産に比べて101ha (10%) 減少した。

これは、畳表の需要の減少等により、他作物への転換等があったためである。

(表6-6、図6-5)

図6-5 「い」の作付面積、収穫量及び10a当たり収量推移 (主産県)



イ 10a 当たり収量

主産県の10a 当たり収量は1,280kgで、前年産に比べて10%下回った。

これは、6月中旬から7月上旬までの日照不足等により、茎の伸長が抑制されたこと等による。

(表6-6、図6-5)

ウ 収穫量

主産県の収穫量は1万1,500tで、前年産に比べて2,800t (20%) 減少した。

これは、作付面積の減少に加えて、10a 当たり収量が前年産を下回ったためである。

(表6-6、図6-5)

エ 畳表生産農家数及び畳表生産量

「い」の生産農家数は705戸で、前年産に比べて62戸 (8%) 減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は691戸で、前年に比べて65戸 (9%) 減少した。

なお、平成21年7月から22年6月までの畳表生産量は405万枚で、前年に比べて27万枚 (6%) 減少した。(表6-6)

表6-6 「い」の作付面積、10a 当たり収量及び収穫量 (主産県)

区 分	「い」 生 産 農家数	作付面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)		畳表生産 農 家 数	畳 表 生 産 量
					作 付 面 積		10a当たり 収 量	収 穫 量		10a当たり 平均収量 対 比	10a当たり 平均収量			
					対 差	対 比		対 比	対 差			対 比		
	戸	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	戸	千枚	
主産県計	705	899	1,280	11,500	△ 101	90	90	△ 2,800	80	103	1,240	691	4,050	
福 岡	26	17	1,160	198	△ 6	74	86	△ 113	64	94	1,240	32	155	
熊 本	679	882	1,280	11,300	△ 98	90	90	△ 2,700	81	103	1,240	659	3,890	

注：主産県とは、福岡県及び熊本県である。